

一人は笑いを愛した
一人は笑いを憎んだ
二人の友情が
完璧なコメディを創り上げた



笑の大学

warai no daigaku



役所広司 稲垣吾郎

原作・脚本 三谷幸喜 監督 星 護

製作＝亀山千広・島谷能成・伊東勇 企画＝石原陵 プロデューサー＝重岡由美子・市川南・稲田秀樹 アソシエイトプロデューサー＝小川泰・佐藤玄 ラインプロデューサー＝前島良行
音楽＝本間勇輔 (オリジナルサウンドトラック ボニー・キャニオン) 撮影＝高瀬比呂史 美術＝清水剛 照明＝小野晃 録音＝田中靖志 装飾＝高島一朗 編集＝山本正明
スクリーンライター＝外川恵美子 監督補＝加門幾生 制作担当＝牧義寛 製作＝フジテレビ・東宝・バルコ 製作協力＝共同テレビ 配給＝東宝

www.warainodaigaku.jp

東宝

フジテレビ

共同

©2004 フジテレビ 東宝 バルコ



warai no daigaku

映像化不可能と言われた、三谷幸喜の最高傑作『笑の大学』が遂に映画化!!

絶賛される原作!!

“迫力のある喜劇賛歌・人間賛歌” 読売新聞

“三谷の心意気が深い感動につながった” 朝日新聞

“三谷喜劇の真骨頂” 日刊スポーツ

1996年の初演で演劇界に衝撃を与えた、舞台「笑の大学」。

三谷作品の中でも最も評価されているが、

その完成度の高さゆえに映像化不可能と言われてきた。

しかし、そのテーマ性の確かさ、脚本の素晴らしいから、

映画化が敢行された。

三谷が新たに脚本を書き直し、新たなエンディングを創り上げたのだ!

9割がたが部屋の中だけ。
映画でどうもたせるのかと思われるだろうけど、
その答えがここにある——

原作・脚本 三谷幸喜 (談)

■理想的なスタッフ・キャスト

監督は、ドラマ「古畑任三郎」「いいひと。」「僕の生きる道」などのほしもちる星 護。その映像作家としての資質が常に話題となり、映画デビューが永く待たれていたが、今作が満を持しての監督デビューとなる。三谷をして“星さんをお願いしてよかった”と言わしめた演出、美しい映像と緻密な音楽で、『笑の大学』が映画として生まれ変わった。

検閲官・向坂睦男には役所広司。96年の『Shall we ダンス?』以来の本格コメディ作品への出演。冷徹な男が笑いに触れることで人間性を獲得していく、そんな難しい役を見事に演じている。喜劇作家・椿一

には稲垣吾郎。「この年代で唯一作家の佇まいをもつ。クールさの中に秘めた熱さをもつ」という、三谷が描くイメージ通りのキャスティングで、不器用でしたたかな作家役を鮮かに演じている。

理想的な俳優、映像作家の力が結集。これまでの常識を打ち破る、笑いと感動の傑作が密室を舞台に誕生した!

□モデルとなった実在の人物

喜劇作家・椿一のモデルは、喜劇王・エノケンこと榎本健一の座付作家・菊谷米。菊谷は検閲に泣かされたながらも、エノケンの全盛期を陰で支えていた。しかし、作家として最も輝いていた時期に召集され、喜劇への想いを抱いたまま戦死。享年35歳。菊谷の残した台本は、今でも永遠の名作として語り継がれている。

“笑ったことがない男”と“笑いに命をかける男”
そんな2人の7日間の闘いが傑作コメディを創り上げた!



物語

舞台は昭和15年。日本は戦争への道を歩み始めていた。国民の娯楽である演劇は規制され、台本も上演前に検閲を受けていた。

——そんな時代に、警視庁の取調室で出会った2人の男——

1人は笑ったことがない男、情け容赦ない検閲官・向坂睦男(役所広司)。

1人は笑いに命をかける男、劇団「笑の大学」座付作家・椿一(稲垣吾郎)。

向坂は、このご時世に喜劇など上演する意味がないと考えている。“笑の大学”を上演中止に持ち込むため、椿の台本に対して「笑い」を排除

するような無理難題を課していく。一方椿は、上演許可を貰うため、向坂の要求を飲みながらも「笑い」を増やす抜け道を必死に考えていく。執拗な向坂の要求は、皮肉にも台本をどんどん面白くする方向に向かってしまっていた。

いつしか2人は夢中で喜劇台本を創り始める。やがて、2人が創り上げる傑作喜劇とは。完成の瞬間、2人に訪れる宿命とは…。



10月30日(土) 全国東宝洋画系ロードショー

フジTV前・アクアシティお台場
シネマメディアージュ (5531) 7878
通常料金での全席指定・定員入替制
<http://www.cinema-mediage.com>